

あさひかわ保育・幼児教育連携会議 会議録

日時	令和8年3月16日（月曜日）午後6時30分から午後8時20分まで
場所	旭川市総合庁舎 7階 会議室7B
出席者	・参加者 6名（五十音順・敬称略） 岩崎安貴子、楠井隆明、小山英明、椎名澄子、鶴間雅之、山本健太 ・事務局 5名 島保育推進担当課長、星こども保育課主査、小池こども保育課主査、池田こども保育課員、早川こども保育課員
公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
会議資料	資料1 地域における保育の質の向上の体制整備調査研究（モデル事業）について 資料2 キックオフシンポジウム地域で育む保育の未来開催結果 資料3 保育優良事例視察調査報告書 資料4 令和7年度保育サポートコーディネーターによる施設巡回報告書 資料5 令和8年度地域における保育の質の向上の体制整備調査研究事業概要 このほか、次第、参加者名簿、会議の概要、開催要綱を配付。

次第	発言者	発言内容
1 開会	事務局	〔定刻につき開会〕 〔配付資料の確認〕
2 挨拶	事務局	〔会議開催に当たり保育推進担当課長から挨拶〕
3 参加者紹介	事務局	〔事務局担当者の紹介〕 〔会議参加者から自己紹介〕
4 あさひかわ保育・幼児教育連携会議について	事務局	〔会議の概要について事務局から説明〕 只今の説明について質問等あるか。
	参加者	〔特になし〕
5 進行役選出	事務局	〔進行役の選出について、開催要綱に基づき参加者の互選により選出する旨説明〕 進行役の選出について、自薦または他薦等、意見あるか。
	参加者	〔事務局に一任の声〕
	事務局	他に意見等あるか。
	参加者	〔特になし〕
	事務局	では、事務局から進行役の選出について提案する。
	保育推進担当課長	〔事務局案の提案〕
	事務局	事務局案のとおり決定してよいか。

	参加者	〔了承〕
	事務局	では、ここからの進行は進行役をお願いします。
6 議題<報告事項>(1) 地域における保育の質の向上の体制整備調査研究(モデル事業)について	進行役	「地域における保育の質の向上の体制整備調査研究(モデル事業)について」、事務局から説明を。
	事務局	〔資料1に基づき説明〕
	進行役	旭川市が受託したモデル事業について説明があった。 質問や意見など伺う。
	参加者	〔特になし〕
(2) キックオフシンポジウムの開催結果について	進行役	「キックオフシンポジウムの開催結果」について、事務局から説明を。
	事務局	〔資料2に基づき説明〕
	進行役	キックオフシンポジウムの開催結果について説明があった。 質問や意見など伺う。
	参加者	パネルディスカッションに登壇したが、他の登壇者ともう少し事前打合せの時間があれば内容のすりあわせができたと感じる。 来場していた園長の間では趣旨がぼやけてしまった印象があったようだ。
	進行役	他にあるか。
	参加者	「保育の質」に登壇者の中でも定めきれておらず、どこに焦点を当てて保育の質を深めるといところが不明瞭だった。テーマの範囲が広がったというのが感想。
	進行役	事前打合せの中でも、保育の質というのがハード面なのかソフト面なのか議論もあったが、アンケートの回答数が少ないということもあり、そのまま効果を測るものとして有効かという点はやや疑問が残る。回答者は好意的な意見や建設的な意見を持っている。逆に少し辛口な意見もあると今後の展開に反映できたのではと感じた。 シンポジウムの中でアンケート入力の時間を設けるなど工夫があると良かった。
(3) 優良事例調査の結果について	進行役	「優良事例調査の結果について」、事務局から説明を。
	事務局	〔資料3に基づき説明〕
	進行役	事務局から四国・関東地方の視察について説明があった。 質問や意見など伺う。
	参加者	先進事例から、やはり連携というところが大きなポイントと感じた。 少子化の影響もあり市内施設数は減っている状況。広い視点で全体を包括できるような取組が必要と感じる。 そういった意味で、保育センターが設置されたことに期待を持っている。時間をかけてでも連携をうまく進めていただきたい。

	進行役	中心になる役割が存在すると、勢いがつく。全体が同じ方向を向くという流れがまず第一歩になるのでは。
	進行役	他にあるか。
	参加者	<p>これまでは幼稚園は幼稚園、保育園は保育園というような形で区別して進めてきたと思うが、少子化の影響もある中、今後は共に考えていかなければならないと関係者は気づいていると思う。ただ、それがなかなか円滑ではないことも現実と捉えている。</p> <p>今回のモデル事業を契機にそういう仕組みづくりを進める必要がある。</p> <p>事務局から説明のあった他都市の事例も参考に、旭川市でもそのような体制ができるとよい。</p>
	進行役	行政からの一方的な形では現場はなかなか連携が取りにくい。現場との意見交換をしながら作り上げていくことが理想的だと事例調査の報告を聞いて感じた。
	進行役	他にあるか。
	参加者	高知県の事例報告について、チェックシート、質向上ガイドライン、園内研修それぞれの実施率などが示されたが、具体的な内容を。質向上ガイドラインは幼稚園と保育園共通のものか。
	事務局	<p>高知県では教育委員会が研修センターを設置し、様々な現場経験のあるOB・OG38名を配置している。</p> <p>冊子等は作成したのち活用されないケースも多々あると認識しておりガイドラインの活用率については視察に何う前から注目していた。ガイドライン活用率は93.6%で、研修時はほとんどの参加者が持参するとのこと。ガイドラインは保育所・幼稚園共通のものとして作成されており、高知県では教育委員会が主体となり保育と幼児教育に関する取組が一本化されていたのが印象的であった。</p>
	参加者	教育委員会との関係で言えば、特に架け橋プログラムなどについては、旭川市も教育委員会との連携が重要と感じている。一体的な取組を求める。
	参加者	経営側と現場の関係性もある中、取り組む方としては多くの課題もあったと思う。中間職のミドルリーダーの育成がキーになると思う。
(4) 保育サポートコーディネーターによる施設巡回について	進行役	「保育サポートコーディネーターによる施設巡回について」、事務局から説明を。
	事務局	〔資料4に基づき説明〕
	進行役	<p>事務局から保育サポートコーディネーターによる施設巡回について説明があった。</p> <p>質問や意見など何う。</p>
	参加者	資料10ページの運営状況の選択肢について、「1とても困っている」

		「5十分満足している」以外は凡例の記載がないがどのような評価となるか。
	事務局	5を最大、1を最低として、5段階評価で回答いただいている。
	参加者	園児数が減ることで職員は減るが、現場の業務量や行事はそのままであり、職員が疲弊してしまうこともある。保育の質の向上につながる一つ前の起点が大事なところになると感じる。 各園でのパソコン普及率などによる業務効率などの差も気になる。
	参加者	保育サポートコーディネーター巡回では、第三者に課題等を聞いてもらえることに意味を感じた。現場職員は外部の方だから言えたことがあったと思う。保育サポートコーディネーターが園同士をつなぐ役割を担うことを期待している。
	進行役	実際に足を運んで巡回することで、普通のアンケートでは出てこない回答結果が得られていると思う。それが園からの良い反応につながっている。
	参加者	意見ではないが、養成校の学生にも伝えればと思い発言する。実は仕事の満足度は、必ずしも賃金の高低ではないと言われている。賃金が上がっても自分は低賃金だと感じる傾向が資料からも読み取れる。保育士に対する処遇改善がここ3年連続爆発的な上昇をしているが、このことについてよく理解して仕事していただきたい、と同時に園側もより生きがいのある職場を提供していただかなければならないと自負している。
	進行役	学生たちは保育職に好意的な印象を持ち入学してくる一方、理想と現実との違いも認識している。 現場の先生から資料のような意見が出ていることがモチベーションの維持につながる。憧れの職業としてまだ存在できていると思う。
	進行役	他にあるか。
	参加者	第三者が巡回して対談形式で、実際に人と人が会話をすることで様々意見があったと思う。 園長クラスが集まるのではなく、ランダムで3～4回くらいに分けて、市主催のもと現場保育士レベルで座談会を実施すると、率直な意見がさらに拾えると感じた。
	進行役	他の組織の同じ仕事を持つ者との意見交換の機会があると、表面的な不満等ではなく、質の高い会話ができるのではと思う。
	進行役	他にあるか。
	参加者	巡回件数は全体のうちの30園ということで、今後100園以上あり大変だと思うが、市内各施設の現状の取りまとめに期待している。
＜意見交換＞ (1) 令和8年度の事業展開	進行役	「令和8年度の事業展開について」、事務局から説明を。
	事務局	〔資料5に基づき説明〕
	進行役	事務局から令和8年度の事業展開について説明があった。

<p>について</p>		<p>特に、テーマごとのワークショップの内容や公開保育の実施について、現場の視点から意見等伺う。</p> <p>先ほど意見のあった座談会がワークショップに当たると考えるが、対象とする年齢層や実施回数などの設定が重要と感じている。</p>
	<p>参加者</p>	<p>既存の研修体系に加え、さらに座談会などが入ることに対して、現場の負担感にも配慮しつつ相互参加による共有ができるとうい。</p>
	<p>参加者</p>	<p>事務局の説明では、まず公立保育所で公開保育を実施することだが、幼稚園団体でも今年度は公開保育の実施を予定している。</p> <p>人数限りはあるが行政等からも見学は可能。公開保育後にディスカッションができるものもあり、事例共有ができるとう考える。</p>
	<p>進行役</p>	<p>保育所と幼稚園の垣根を越えて意見交換や交流が広がるとよい。</p>
	<p>進行役</p>	<p>ワークショップのテーマ設定について、自園の職員を参加させたいくなるような具体的なテーマ案はあるか。</p>
	<p>参加者</p>	<p>キャリアアップ研修でも各分野あるが、様々手をつけていく中で、逆にスペシャリストがいないという状況が起こっている。特定の分野のスペシャリストにさらにフォローアップがあればそこを選んで参加できる。同じ立場の保育者がさらに情報を共有できるような仕組みがあるとよい。オンラインではなく実際に出向いて経験を積むことが重要。</p> <p>「何を学びたいか」というテーマのワークショップがあってもよい。そこでの議論から出てくるニーズに添えていくというスタイルはいいか。</p>
	<p>進行役</p>	<p>よい提案だと思う。</p>
	<p>進行役</p>	<p>予定の時刻となったので本日の議題は終了する。</p>
<p>7 その他</p>	<p>進行役</p>	<p>全体を通じて何かあるか。</p>
	<p>参加者</p>	<p>例年秋の市主催のイベントについて、各法人ブースに立ち寄る学生の数も限られている状況の中、人材確保の観点から実施方法の工夫などについて伺う。</p>
	<p>事務局</p>	<p>令和7年度は趣旨を少し見直し、お子さんが立ち寄れるような仕掛けなど新たな工夫を実施した。来場者からは好評いただいた部分もあるが、就職ブースに一定程度の学生が訪れる形も引き続き検討していく。</p>
	<p>進行役</p>	<p>就職に直結する学生へのアプローチは必要だが、小学生などの世代にも保育の魅力を発信し、結果的に将来の人材確保につながるという循環を生み、長期戦でも考えていかなければならない時期にきている。</p> <p>事例報告にもあったが、ボランティアとして運営側に参加することで高校生世代に興味を持ってもらうなどの工夫も必要と考える。</p>
	<p>進行役</p>	<p>事務局から追加の説明等はあるか。</p>

	事務局	〔各施設に対するモデル事業の周知について説明〕
	進行役	本日の議題は全て終了し、進行を事務局にお返しする。
8 閉会	事務局	〔事務連絡を行った〕 以上で本日の会議を終了する。